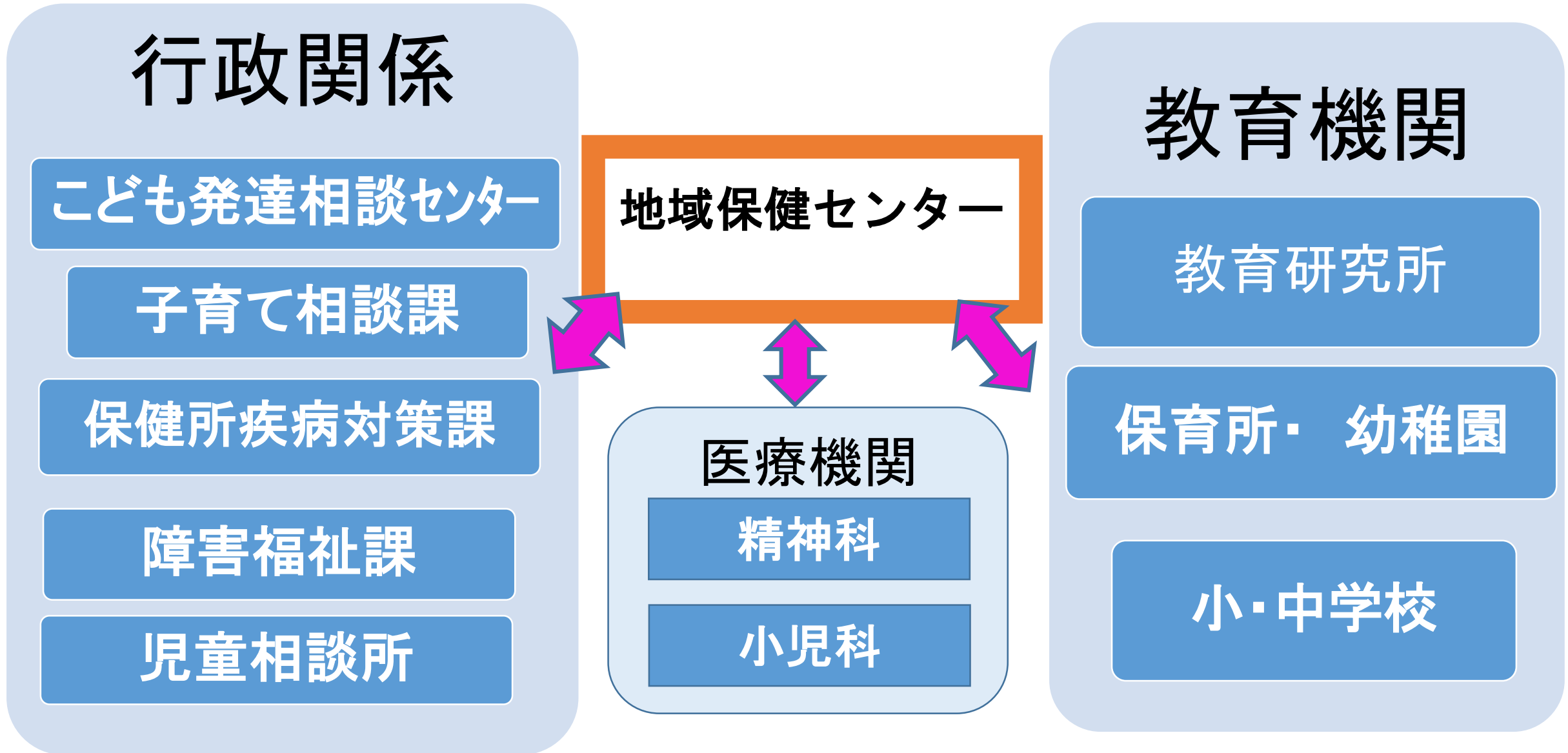


発達支援の中の連携



川口市保健所 地域保健センター 本望敦子

連携の関連図



8か所の保健ステーションの
地区担当保健師が
連携の要

＜母子保健係＞
乳幼児健診
幼児相談、
親と子の心の
相談

地域保健
センター

戸塚保健ステーション

戸塚地区

越谷市

芝・神根保健ステーション

神根地区

芝地区

青木保健
ステーション

鳩ヶ谷地区

新郷保健ステーション

安行地区

新郷地区

青木地区

鳩ヶ谷分室

横曽根地区

横曽根保健ステーション

中央地区

草加市

中央保健ステーション

南平地区

南平保健ステーション

保健ステーション
8か所のうち
7か所が子育て
世代包括支援
センターを併設

川口市の乳幼児健康診査・健康相談

3・4か月児健康診査(個別)

3か月～5か月になる前日までの乳児
問診、身体計測、診察など

10か月児健康相談(集団) ※

9か月～11か月になる前日までの乳児
問診、身体計測、運動発達の観察、栄養相談など

1歳6か月児健康診査(個別)

1歳6か月～2歳になる前日までの幼児
問診、身体計測、診察

1歳6か月児歯科健康診査(個別)

1歳6か月～2歳になる前日までの幼児
問診、歯科診察、その他必要な指導など

3歳6か月児健康診査(集団)

3歳6か月～4歳の誕生日の月までの幼児
問診、身体計測、尿検査、内科・歯科診察
アンケートによる視力・聴力検査、その他育児、栄養、
心理等に関する相談

は集団健診

※は市独自で実施

3・4か月児健診 (個別健診)

- 発育状態、首のすわり具合、音への反応、肌の状態、先天性の病気がないかなどのチェックをします。
- 「あやすと笑うか」「音に反応するか」「目でものを追うか」などが、発達具合を測る指標になります。
- 未受診の方には後日アンケートを送付。返信ない方には保健師が訪問して発育発達と育児の確認をします



10か月児健康相談（市独自で実施）

- つかまり立ち、ハイハイなどの運動機能の発達具合、歯の生え具合、喃語（ダダ、ババなどの言葉）、離乳食の様子などをチェックします。また、体が倒れそうになった時に手を伸ばして体を支えようとする「ホッピング反射」の確認や、予防接種の進み具合なども確認されます。
- 希望者には、栄養士による個別の栄養相談も実施しています



1歳6か月児健診（個別健診）

- 心音や腸の動き、皮膚の状態に異常がないか、視力・聴力などをチェックします。ひとり歩きができるか、小さいものを掴めるか、物の名前がわかるか、指さしができるか、名前を呼ばれると振り向くかなど、言葉や、音への反応を確認します。
- 1歳6か月児歯科健診では、歯の本数や生え方、虫歯がないかをチェックし、歯の磨き方の指導などを行います。
- 未受診の方には後日アンケートを送付。返信ない方には保健師が訪問して発育発達と育児の確認をします。



3歳6か月児健診 (集団健診)

- 保健師による問診と小児科医、歯科医による診察、発育状況の確認、生活習慣の確認、言語・精神・運動発達の確認、社会性の発達確認、尿検査、視力や聴力の確認などが行われます。
例えば、名前と年齢が言えるか、簡単な質問に答えられるか等を問診で確認します。
- まだイヤイヤ期が続いている、かんしゃくやこだわりなど、子育てに悩みがあれば心理士に個別相談ができます。

◆関係機関との連携◆

事前に保育所等の関係機関から連絡を受けた場合、健診前のミーティングで情報共有を行い、後日報告します。



幼児相談



- 対象者： 1～6歳の幼児
- 内 容： 育児、発達、ことばの遅れなどの相談
- 従事者： 臨床心理士、保健師、保育士

子どもの発達の遅れや、育てにくさを心配する保護者からの相談ニーズに応じ、予約制で実施。保護者から直接申し込み又は地区担当保健師から紹介される。相談後は見たてと方針が示され、必要時は地区担当保健師から関係機関へ繋がります。

親と子の心の相談



- 対象者： 思春期の児童と保護者
- 内 容： 発達、ことばの遅れ、対応などの相談
- 従事者： 精神科医師、保健師

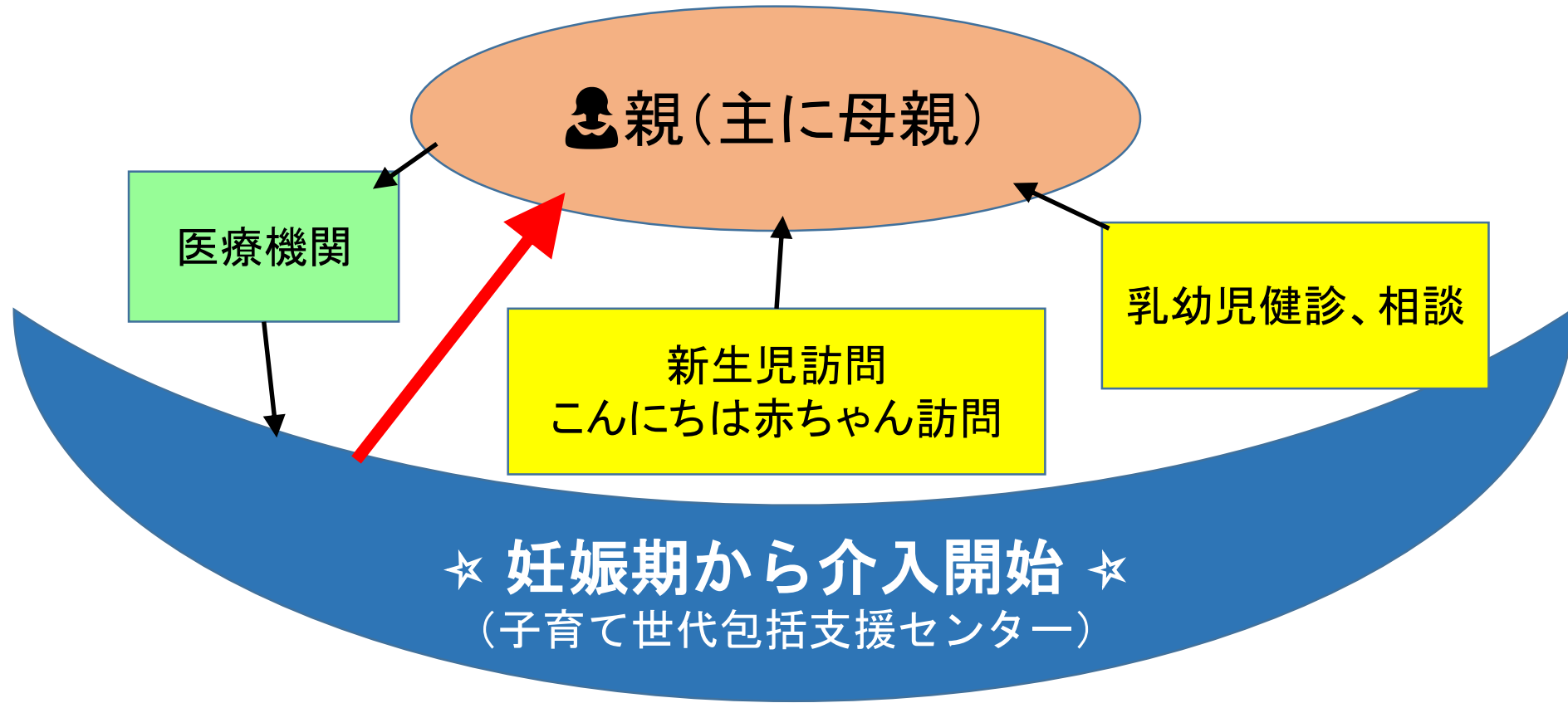
子どもの発達の遅れや、育てにくさを心配する保護者からの相談ニーズに応じ、予約制で実施。保護者が学校から勧められたり、地区担当保健師から紹介される。相談後は見たてと方針が示され、必要時は地区担当保健師から関係機関へ繋がります。

(I)子どもに発達の問題がある場合

(II)親に発達の問題がある場合



(Ⅱ)の場合



要点

- ☆ 子育ての早期段階から保健師が介入して、信頼関係を構築。
- ☆ 困った時にSOSをどこかへ出してもらうことが大切。
- ☆ 必要な時には、精神科、心療内科へ案内する。

連携の意義

- ① 支援の選択肢が増える
⇒ 可能性の拡がり
- ② アセスメントが重層的になる
- ③ 多様なニーズに対応できる
- ④ SOSを出せる場所が増える

連携のポイント

- ① 他機関の機能を把握しておく
(相談者に説明できるくらい)
- ② 相談者のニーズを正しく把握
- ③ 他機関へ紹介する時は極力同席する
- ④ 紹介された時はフィードバックを行う
- ⑤ 連携には時間がかかりますが、長い目で
見ると、実りある時間だと考えます。